

清朝銭図説・平成二〇年（一九九八）・初期資料の紹介

先日、古い拓本や資料の整理をしていたら、第五回東京国際コイン・コンヴェンション（TICC）での清朝銭に関する講演の原稿が出てきた。今から二五年前も前の資料であるが見直すところと最初に清朝銭二三種の拓本、次に中国明代・清代と日本との歴史の比較年表、清朝銭・五九局満文の一覧表や、制銭とは別の康熙詩銭一覧乾隆通寶・新疆紅銭の一覧、嘉慶通寶宝泉局・星文一覧など、自分で作成しておいて評するのはどうかと思うが、清朝銭の概要を知るのに役に立つと思う資料なので今回掲載する。初心者には理解しにくいかも知れないが、清朝銭・鑄銭局の満州文字は、特に絵文字として形で覚えていく事から始めると少しは判り易く、参考になると思うので、挑戦して欲しい。

★ここ一五年でご存知のように、中国銭の市場環境が極端に変化した。

それは中国人収集家が、日本にあった古文銭・歴代銭・中国金貨・銀貨、特に大型銭が多い咸豊銭、清朝銭を多く購入し、その類が市場から消えた。しかし中国銭の小型の古銭類はまだまだ、市場に残っており、情報を提供すれば収集を楽しめる分野があると思う。また古寛永・新寛永・皇朝銭の収集家が、老齢化の影響で収集品の整理を始め、日本銭が安く市場に出回っており、今が日本銭を収集するチャンスかもしれない。昔から古銭の収集は市場に数が多いものを集めると良いと、先輩方から教えられてきた。

★ところで今年のTICCは出展業者さんや、参加された収集家から聞いた話では、初日だけでなく三日間共、入場者が多かったらしい。また近代銭で大正時代以降の低額品や、最近の記念貨幣などを探している人達が増えたという話だけでなく、浅草で同時開催していた切手の催し会場も結構、賑わっていたという話だった。話半分としても少し古銭環境が良くなってきたのかも！今後も存在数が多く、高くない穴銭を中心に忘れられたものをテーマとしたい。次回は同治通寶の記号銭・商業数字銭・漢数字銭・背文字銭などの掲載を予定している。

清朝銭図説

第5回日本貨幣界全国大会 穴銭を楽しむリレー講座のための抜粋資料

平成十年五月三日

於 ロイヤルパークホテル

- 一 清朝銭紹介
- 二 清代古銭年表
- 三 全局満文解説早見表
- 四 分類を楽しむ方法

光華 椿井琢光